

機関番号：42307

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21720318

研究課題名（和文）

東マレーシア先住民社会におけるグローバルな飲酒文化の形成に関する人類学的研究

研究課題名（英文） Anthropological Studies on the Glocal Drinking Culture among the Dusun in East Malaysia

研究代表者

三浦 哲也 (MIURA TETSUYA)

育英短期大学・現代コミュニケーション学科・講師

研究者番号：80444040

研究成果の概要（和文）：

東マレーシアの先住民であるドゥスン族の社会においては、グローバル化の強い影響を受ける状況下に条件付けされながらも、伝統的な酒の醸造と飲酒の方法において、自律的な対応によってローカルな創造性を発揮している。ドゥスン族社会は、その伝統的な酒の醸造と飲み方に、外部から流入した工業製品やその廃物を利用する一方で、酒宴でのコミュニケーションのあり方や酒の売買方法を変化させながら、新たな飲酒文化を創造していることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The Dusun, indigenous people in Malaysia, show highly originality of traditional way of making and drinking alcohol drinks, which is autonomous correspondence under mighty influence of globalizations. The research evidences the Dusun applies industrial goods and waste from the outside traditional brewing method and drinking, and that they also creates new drinking culture by changing way of communications in drinking parties.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,300,000	990,000	2,990,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学 ・ 文化人類学・民俗学

キーワード：嗜好品文化、グローバル化、飲酒文化、文化人類学、マレーシア

## 1. 研究開始当初の背景

文化人類学においては、世界各地のローカルな酒造りや飲酒行動、酒の持つ文化的・社会的価値に関する民族誌的資料は蓄積されている。また、飲酒文化の通文化的比較研究を目指したやや巨視的な試み[吉田 1995、石毛 1998 など]も行われている。しかしながら、ローカルな飲酒文化の現代的な動態を、グロ

ーバリゼーションの文脈の中で捉えようとする研究はほとんど見られない。

モノを対象としたグローバル化の人類学的研究は、マクドナルド[ワトソン 2003]やコカコーラ[Miller1998]といった多国籍企業の商標に代表される、世界市場を広く流通する商品をめぐって展開されてきた。一方、世界市場の末端部に位置する、いわゆ

る周辺社会については、人文社会科学一般として、グローバリゼーションの受容者として位置付けられた。そして、そうした小規模社会の小規模な生産物は、インフォーマル・セクターという欠性概念によって整理され、あるいはその伝統性や希少性、その変容が論じられることが多かった。

これに対して、湖中[2007]は、東アフリカ遊牧民社会の廃品利用における「微細なグローバリゼーション」の分析から、いわゆる周辺社会における小規模な生産物が、圧倒的な富が流動する世界市場に対して、独自性を発揮していることを指摘している。

一方、近代化・グローバル化が進む現在の世界において、酒にかかわる文化も世界的に画一化される傾向にある。そこでは、酒は、商品であり、健康に悪影響をもたらすドラッグであり、個人的な嗜好品である、という「西洋近代的」価値観に方向付けられているようである。

そのような近代化やグローバル化は、ローカルな飲酒文化にいかなる変容をもたらすのか。そして、それは、人々の日常生活にどのような意味を持つのであろうか。

## 2. 研究の目的

本研究は、グローバルな飲酒文化の形成のありようを明らかにすることを目的とし、ボルネオ島の先住民であるドゥスン族の社会を対象とする現地調査に基づき、生活の急速な近代化に伴う飲酒文化の変容が、彼らの日常生活にもたらす影響を記述・分析する。

醸造法や醸造に係る物質文化等の変化も重要であるが、本研究では、当該社会の人々が頻繁に催す酒宴についても、詳しく分析する。酒宴は、農事暦の節目や冠婚葬祭に儀礼的に行われるだけでなく、日常生活の一部として、毎週末、多いときには毎日のように催される。村落社会内の人間関係、親族関係の強化と確認の場面であるこの酒宴を分析することで、当該社会の飲酒文化の特徴と、現代的な変化を明らかにする。

そして、ドゥスン族の飲酒文化の現状と、多様な酒が消費される日本社会の飲酒慣行・飲酒文化とを比較しながら、酒という人間生活に密着した文化が、グローバル化あるいはローカル化することの意味を考察することを目的としている。

## 3. 研究の方法

ボルネオ島北部山岳地域に居住する先住民であるドゥスン族の社会では、伝統酒が頻繁に醸造され、日常的に開催される酒宴で消費されている。本研究が分析の対象とするのは、ボルネオ島北部の山間地に居住しているドゥスン族の村落社会である。

当該社会では近年、安価な工業製品の流入、

電力供給の開始、近代的な医療・衛生に関する情報の流入といった社会変化を経験し、それにあわせて、醸造に用いる道具、酒を飲む酒器が、様々に変化していることが明らかになっている。しかし、物質文化の側面のみでは、飲酒文化の変化の実態を捉えるためには不十分であり、当該社会の人々の生活の深部の分析が不可欠である。

当該社会において、人と酒とが織り成す、酒と飲酒についての価値体系の全体像を分析する必要がある。そこでは、酒に係る物質文化が変化し、あるいは酒そのものが商品化し、さらには工業生産された酒が流入する中で、彼らが醸す酒の価値が相対的に変化していることに留意する必要がある。ただし、そのような飲酒文化の状況を、翻訳的適応の、あるいはグローバルな現象[前川 2000, 2004]として捉えるだけでなく、世界市場に対する独自性と、新たな創造性の現場として分析する。

このような大きな変化の中にある当該社会における酒造と酒宴について、フィールドワークによって資料収集を行う。繰り返される酒宴での人々の所作や行動、供される酒の出所・種類・量についての定量的な情報、また、参集した理由や、参加者たちの関係性といった質的な情報を収集する。あわせて、酒と酒宴に関する意識について、年齢や性差、町の酒場など酒についての異なる文化体験の有無などに留意しながら聞き取り調査を行い、当該社会の人々にとっての酒の意味について明らかにしていく。

最後に、社会構造の特徴と変化に留意しながら、飲酒文化の現代的な変化について分析を行い、酒を飲むことのグローバルな意味を考察する。

## 4. 研究成果

全二カ年の研究期間の初年度は、グローバリゼーションの状況下にある当該社会の広汎な意味での飲酒文化の検討を調査研究課題の中心とし、主に下記のような成果を挙げた。

第一に、東南アジア島嶼部地域における酒および飲酒の慣行に関わる民族誌的資料を中心に、特に文化変容とのかかわりの面から文献研究を行い、ドゥスン族の飲酒文化の特徴を明確にした。第二に、これまでに蓄積している資料・知見と、新たに得られた資料との比較に基づき、当該社会の酒に関わる物質文化の変化について、より精緻な分析を行い、当該社会の飲酒文化の変容過程をより明確にした。第三に、村落内の酒宴および酒の流通についての調査結果から、酒を媒介とする人間関係の実態を解明した。

以上のような初年度の成果を受け、第二年度の現地調査においては、酒の売買や酒宴に

おける人々の実際の行動をさらに詳細に記録分析することで、酒を仲立ちにするコミュニケーションの特徴を明らかにした。その上で、市場経済や情報化の拡大などに対する、小規模社会の人びとの生活実践における適応について、経済人類学、資源人類学、生態人類学の先行研究を参考に、理論的整理を行った。

その結果、ドゥスン族社会は、その伝統的な酒の醸造と飲み方に、外部から流入した工業製品やその廃物を利用し、その酒宴でのコミュニケーションのあり方を含め、新たな飲酒文化を創造していることが明らかになった。グローバル化の強い影響を受ける状況下に条件付けされながらも、ドゥスン族社会は、酒の醸造と飲酒の方法において、自律的な対応によってローカルな創造性を発揮していると言える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 三浦哲也, 「飛行機に乗りたがる妊婦—ボルネオ島先住民・ドゥスン族の女性の妊娠の社会性について—」, 『育英短期大学研究紀要』28号, pp. 47-56, 2011年, 査読有

② 三浦哲也, 「東マレーシア・ドゥスン族社会における飲酒文化の変容」, 『生態人類学会ニュースレター』15号, pp. 32-34, 2010年, 査読有

[学会発表] (計 件)

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

三浦 哲也 (MIURA TETSUYA)

育英短期大学・現代コミュニケーション学科・講師

研究者番号: 80444040